

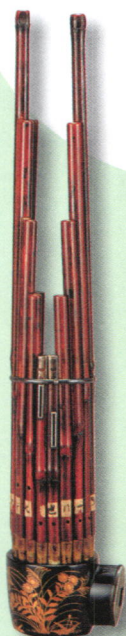
楽しんで



はじめての

ほうがく

邦楽



実際に邦楽にふれてみよう

石川県立音楽堂 邦楽ホール

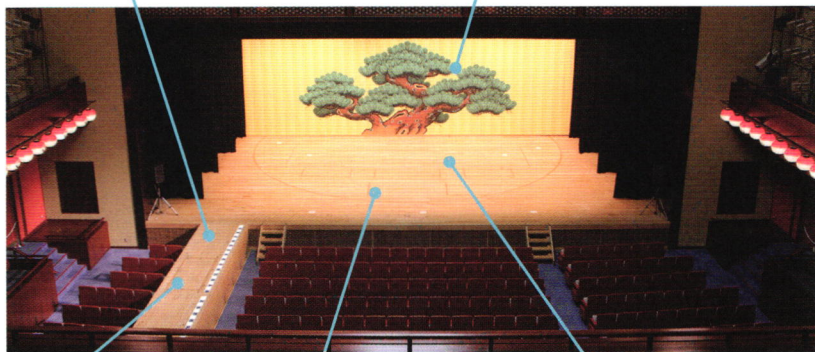
石川県立音楽堂には、クラシック音楽専用のコンサートホールのほかに、日本の音楽専用の邦楽ホールがあります。客席は720席。専用のホールではきれいな響きで日本の音楽を味わうことができますので、ぜひいろいろな舞台に足を運んでみてください。

花道 はなみち

舞台から客席を通っている道を「花道」といいます。役者の特別な出入りに使います。

松羽目 まつばめ

通常、能舞台の奥には松が描かれた「鏡板」があります。邦楽ホールでは能・狂言を基にした歌舞伎公演などのときに、これをまねた「松羽目」を特別に設置します。



スプーン

花道の舞台に近い場所には、舞台の下から役者を急に登降させる「スプーン」という装置が付いています。

迫 せり

舞台の一部を切り抜いて、役者や演出の道具を上げたり下げたりする装置です。

廻り舞台 まわりぶたい

舞台の中央の床を円形に切って、その部分を床下から動かして回転するようにした装置です。歌舞伎で考案されました。

〒920-0856
石川県金沢市昭和町20番1号
(JR金沢駅兼六園口)
☎076-232-8111
音楽堂チケットボックス
(石川県立音楽堂1F)
☎076-232-8632



発行 ● (公財) いしかわ県民文化振興基金

【事務局】石川県県民文化局文化振興課

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1-1 TEL: 076-225-1372

監修・執筆 ● 徳丸吉彦 (お茶の水女子大学名誉教授、音楽学者) 監修 ● (公財) 石川県音楽文化振興事業団

編集・制作 ● (株) スプートニク、(株) ひとま舎 デザイン ● 磯辺加代子 印刷 ● (株) 邦友

楽器写真提供 ● 浜松市楽器博物館 (クレジット明記のない写真すべて)、音福、三味線みかど、

(株) 宮本卯之助商店、(株) ヤマハミュージックジャパン

平成29年2月発行



石川県観光 PR
マスコットキャラクター
「ひやくまんさん」も
解説のお手伝いをするよ♪

ようこそ、 邦楽の世界へ

日本の音楽をもっと知ろう!

長い間受け継がれてきた

日本の伝統音楽

ここでご紹介する邦楽とは、

日本で生まれた声の音楽や、日本で生まれた楽器と外国から日本に入^{はい}って長い間使われてきた楽器を使う音楽を指します。

日本列島に住む人々は非常に古い時代から音楽をもっていた。日本でつくられたフエやコト、あるいはほら貝なども現在まで使われている楽器です。

仏教が中国と朝鮮半島から伝えられると、^{きょうてん}経典に旋律を付けて歌う^{うたう}声^{こゑ}明^{めい}も伝えられ、声を使

うほかの音楽に大きな影響を与えました。寺院がつくられると大きな鐘^{かね}（梵鐘^{ぼんしゆ}）がつくられ、鐘によってそれぞれがうその響きは遠くまで聞こえました。

鐘は最も古い楽器といえるでしょう。

そして、たくさんの楽器や合奏曲^{そうそうきょく}が外国から入り、それが日本では^{がく}雅楽として古代より演奏され続けています。その後、特別な舞台^{ぶたい}で演じる^{のう}能・狂言、人形を使った芝居^{しばい}（文楽など）、役者による芝居（歌舞伎）が生まれました。一方、小さなスペースで演奏される室内楽として、琵琶^{びわ}を弾きながら語る^{かた}平家、箏を中心にした^{そうぞう}箏曲、尺八の音楽が次々に生まれました。20世紀に入ると、こうした伝統が西洋音楽の影響を受けて、新しい合奏のかたちも生まれましたが、それらは地域の民謡や芸能とともに広く親しまれています。



白山市の文弥人形浄瑠璃
写真提供：白山市教育委員会



石川県立能楽堂での演能



奈良・東大寺の梵鐘
撮影：小堀さとみ



ひやくまんさん
きんぱく わ じまぬり か
金箔や輪島塗、加
が ゆうぜん
賀友禅など、石川
県が誇る伝統工芸・
文化をぎゅっと詰め
込んだデザインの
キャラクター。県の
広告塔として、全身
で石川の魅力をPR
しています。

目次

2

ようこそ、
ほうがく
邦楽の世界へ

4

が かく
雅楽

6

しょうみよう
声明

7

へい け
平家

8

のう かく
能楽

10

ぶんらく
文楽

11

か ぶ き
歌舞伎

12

さんきよく
三曲

14

みんぞくげいのう
民俗芸能と
みんよう
民謡

15

新しい邦楽

邦楽早わかり



ここでは日本で生まれた音楽を時代ごとにご紹介します。それぞれの音楽はバラバラにあるのではなく、^{たが}互いに影響し、関連しながら発展してきました。

古代 (11 世紀ごろまで)

雅楽(4 ページ)と仏教音楽の^{しょうめい}声明(6 ページ)が生まれました。雅楽には日本古来の歌、外来の^{ぶがく}舞楽と^{かんげん}管弦があります。声明と雅楽は古代からいっしょに演奏されてきました。

中世 (11 世紀から 16 世紀前半)

平家(7 ページ)・^{もうそう び わ}盲僧琵琶そして^{のう かく}能・^{きやうごん}狂言(能楽)(8 ページ)が生まれました。平家は雅楽と声明から影響を受け、能は平家から影響を受けました。

近世 (16 世紀後半から 19 世紀末)

^{しや み せん}箏曲が生まれました。また、この時代に^{じやうた}三味線が日本の本土に入り、それが^{じやうた}地歌という室内楽で、また^{ぶんがく}文楽(10 ページ)と^{げきじやうおんがく}歌舞伎(11 ページ)という劇場音楽で中心の楽器になりました。文楽と歌舞伎は能・狂言から影響を受けました。
^{こきゆう}胡弓もこの時代に生まれ、^{さんげん}箏・^{じやうたじや み せん}三弦(地歌三味線)・^{さんきよく}胡弓による^{さんきよく}三曲(12 ページ)という合奏を生みました。盲僧琵琶からは^{さんま び わ}薩摩琵琶が生まれました。この時代に生まれた^{みんぞくげいのう}民俗芸能や^{みんよう}民謡(14 ページ)が多くあります。尺八が宗教音楽の演奏に使われました。

近代・現代 (19 世紀末から現在)

盲僧琵琶から^{ちくぜん び わ}筑前琵琶が生まれました。^{ちくぜん}尺八が宗教音楽としてだけでなく三曲に加わりました。昔からの楽器に^{あたら}新しい音楽(15 ページ)を加え、また、楽器の組み合わせを新しくする試みが続いています。

現代では、近世生まれの音楽とともに、古代や中世に生まれた音楽、さらに西洋音楽も新しい音楽をつくるために使われています。

日本古来の音楽と大陸の音楽が融合 ゆうきょう



雅楽

【ががく】



写真提供：雅楽天神会

雅楽とは古代に生まれた、複数の楽器による合奏の音楽です。これは日本がアジア大陸から取り入れたもので、もともとはたくさんの種類がありましたが、大きく2つに分かれます。

1つは中国から来た音楽を中心にした「唐楽」です。演奏方法は2つあり、舞を伴う舞楽と、合奏だけの管弦です。どちらも、リズムを決めるのは羯鼓・鉦鼓・太鼓です。羯鼓は小型の太鼓で、その両面を桴（打楽器をたたく棒）で打ち、鉦鼓は皮製の鼓ではなく、皿の形をした金属を吊るして打つものです。太鼓は両面の太鼓ですが、片面を2本の桴で打って、リズム

に大きな区切りを付けます。旋律を演奏する管楽器は、笙・竜笛・篳篥です。管弦の場合は、これらに楽琵琶と楽箏が加わり、旋律に区切りを付けます。

もう1つは朝鮮半島の国々から入った音楽で「高麗楽」とよばれます。管弦はなく、舞楽としてだけ演奏されます。羯鼓のかわりに右手の桴だけで打つ三の鼓が、竜笛のかわりに高い音の出る高麗笛が使われます。篳篥はありますが、笙は使われません。

雅楽の魅力は、さまざまな楽器による同じようで少しずつ違う旋律が、それぞれの音色をもって重なる響きにあります。

雅楽で使われるおもな楽器

笙 しょう

口で吹くオルガンです。17本の竹管が器に差し込まれています。そのうち15本の管には音を出すための薄片（リード）が付いていて、管の穴をふさいで息を吹きこんだり吸ったりすると、音が出ます。同時に5本や6本を鳴らして和音を演奏することができます。



竜笛 りゅうてき

唐楽で使われる横笛で、管に息を吹き込んで鳴らします。7つの指孔を使って音の高さを決めます。

篳篥 ひちりき

オーガエのような2枚の薄片をふるわせて（ダブル・リード）鳴らす楽器です。息の使いかたでなめらかに音を動かすことができます。小さい楽器ですが、大きな音を出します。



代表的な曲はコレ！

- 唐楽舞楽《蘭陵王》
- 唐楽管弦《越天楽》
- 高麗楽舞楽《納曾利》

楽琵琶 がくびわ

楽器を水平に抱えて小型の撥（ばち）で演奏します。4本の弦には柱（はしら）が付いています。そのため、調弦を決めると、柱によって定まった音の高さを出すことができます。むかしは独奏にも使われましたが、いまは唐楽の管弦で使われます。



仏教の儀式で使われた“声”の音楽



【しょうみょう】



写真提供：特定非営利活動法人 SAMGHA

声明は仏教の音楽を指します。

仏教はインドで生まれた宗教で、西域（中国の西方の地域）・中国・朝鮮半島を通じて日本に伝えられました。その音楽も、仏教の教え（経典）とともに日本に伝えられ、752年に開かれた東大寺の大仏のための儀礼では大勢の僧侶によって演奏されました。声明は現在も寺院での儀礼に欠かせない音楽として、それぞれの宗派が大切に伝えています。

また声明は、後に生まれた平家、能楽、義太夫節、民謡などに受け継がれていて、声明が日本の音楽の源だといわれています。

知っているかな？

邦楽から生まれた言葉



打ち合わせ

雅楽のリズムを決める3つの打楽器をちようどよく合わせることがをいいます。そこから、打楽器の合奏、2つ以上の曲を同時に演奏することを指すようになり、さらに、準備のための話し合いを指すようになりました。

ノリ

能のリズムの種類を指しましたが、そこからリズム感を指すようになり、歌舞伎や文楽では言葉を三味線のリズムに合わせるしかたも指します。動詞としてのノルは一般にテンポを速めることを指します。

あんばい

雅楽の楽器筆筆で、指使いを同じにしたまま、息とリードの使いかたを変えて音を微妙に上げ下げすることを塩梅といいます。それが「あんばい」と読まれるようになり、ものごとの程度を指すようになりました。

ろれつがまわらない

雅楽で使う音の高さの決めかたや音の動しかたを律呂、あるいは呂律とよびます。それがなまってロレツと発音され、声の出しかたも指すようになりました。そこから、はっきりしない声をろれつがまわらない、といいます。

琵琶を弾きながら「平家物語」を語る

平家【へいけ】

平家（へいけ）ともよばれます）とは、源氏と平家の戦いを扱った『平家物語』を琵琶によって語る音楽です。使用される琵琶は洋ナシ形の胴に棹を付けた弦楽器で、西アジアで生まれたものが中国に伝わりいろいろな形のもが生まれ、日本に入りました。日本でも楽琵琶、平



演奏：菊中央雄司（きくおう ゆうじ）
写真提供：浜松市楽器博物館

家琵琶、盲僧琵琶、薩摩琵琶、筑前琵琶など、大さき、弦や柱の数、柱の高さなどがちがう楽器と音楽が生まれました。

楽琵琶から平家琵琶がつくられ、平家琵琶から九州の盲僧琵琶が、盲僧琵琶から薩摩琵琶と筑前琵琶が生まれました。

平家で使われる楽器

平家琵琶 へいけびわ

楽琵琶よりも小型で、弦は4本、柱が5つあります。柱の上ではなく脇を押さえます。撥も楽琵琶よりも大きく先が開いています。

代表的な曲はコレ！

- 平家《那須与一》
- 薩摩琵琶《城山》
- 筑前琵琶《湖水渡》

いろいろな琵琶

薩摩琵琶 さつまびわ

勇壮な音楽のために薩摩（鹿児島県）でつくられたよく響く琵琶で、柱と柱の間で弦を押さえて多くの音を出すことができます。



筑前琵琶 ちくぜんびわ

九州の筑前（福岡県）博多で明治時代に生まれた楽器です。三味線音楽の影響を受け、柔らかな響きと語りかたが特徴です。



将軍や大名も愛した演劇 えんげき



能楽

【のうがく】

能楽は能のうと狂言きやうげんを指します。能は歌や舞まいを中心とする劇げで、セリフや会話、歌といった声を使う部分がすべて謡うたいとよばれます。一方の狂言はセリフを中心とする劇で

すが、そのセリフが音楽になっていて、そこで演じられる歌や舞も重要じやうようです。どれにも独特どくどくの動きかたがあり、音の抑揚よくようも種類によって決まっています。

物語の主人公を演じるのがシテで、多くの場合は顔に面おもてを付けて演じます。舞台ぶたいの横に二列に座って謡を担当するのが地謡じうたいで、筋すじを運ぶ（ストーリーを進める）役割をもっています。謡と舞の伴奏ばんそうをするのが囃子はやしで、能管のうかん（笛）、小鼓こづみ、大鼓おおづみ、太鼓たいこの4つの楽器が、原則としてそれぞれ一人で演奏えんそうされます。囃子は劇のクライマックスでの舞を伴奏するだけでなく、人物の登場の音楽を演奏するなど、劇の段落を示す役割も果たします。能楽を演じるシテ方かた、その相手かたを演じるワキ方かた、狂言方きやうげんかた、さらに

囃子の楽器それぞれが流儀りうぎによって分かれています。たとえばシテ方には観世かんぜ、宝生ほうしやう、金春こんばる、金剛こんじやう、喜多きたの五流があり、それぞれ謡いかたや舞いかたがあります。江戸時代には将軍や大名たちが特定の流儀を保護しました。



加賀伝統の能

か が ほうしょう 加賀宝生

江戸時代の大名は能を習い、また能を保護しました。加賀藩の能は金春流でしたが、17世紀中ごろから18世紀にかけての藩主前田綱紀はそれを宝生流にあらため、武士だけでなく町人にも習わせました。19世紀中ごろには加賀での宝生流がさらに盛んになり、加賀宝生の名前でよばれました。藩がなくなった明治維新後も、人々の努力でこの伝統が保たれて、1950年に金沢市の無形文化財に指定され、いまでも子どもを含め多くの人々に受け継がれています。

能楽を観るならここ！

石川県立能楽堂



石川県立能楽堂は、石川県の能楽文化を保存し、伝えていくために、1972年、全国初の独立した公立能楽堂として開館しました。能舞台は、1932年に建てられた金沢能楽堂の本舞台が移築され、歴史を感じることができます。

〒920-0935

石川県金沢市石引 4-18-3

☎ 076-264-2598



能楽で使われる楽器

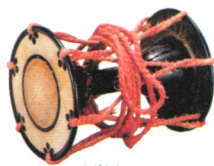


能管 のうかん

7つの指孔をもつ横笛です。種類のちがう竹を組み合わせ、漆を使って丹念に仕上げます。音程を正確に出すよりも、息を使ったリズム楽器としての役割が大切です。

小鼓 こづみ

砂時計のような形をした胴の両側に、馬の皮を調べ緒（ひも）で結びつける楽器です。右肩のせて右手で打ちます。革の打つ場所と調べ緒の締めかたによって、4種の響きを区別します。



大鼓 おおづみ

小鼓と同じような形の楽器ですが、左の腰に置いて右手で打ちます。革を熱で乾燥させて使います。強い音と弱い音の区別が大切です。小鼓と同じように掛け声もリズムを示します。

太鼓 たいこ

床に置いて桴で打つ楽器です。桴の振り下ろしかたや革の響かせかたで出す音が区別されます。掛け声もリズムをつくりまします。能で太鼓が使われるのは、登場人物が神や鬼などの場合です。



代表的な演目はコレ！

- 能《羽衣》 ● 能《安宅》 ● 狂言《末広》

語り・三味線・人形遣いが生み出す世界



【ぶんらく】

人間の役者ではなく、人形を動かすことで劇をつくるのが人形芝居です。これに語りと三味線による音楽「浄瑠璃」が結びつき、人形浄瑠璃が生まれました。日本各地にありますが、なかでも文楽は人形浄瑠璃の代名詞となり、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。文楽は、声を出す人（太夫）、三味線弾き、人形遣いの3つの専門家によって上演されます。現在では、主な人形の1つ1つがそれぞれ3人の人形遣いの共同作業で動かされます。人形は声を出しませんので、太夫は子どもから老人までの人形のセリフを語り、また、物語の筋を語ります。三味線弾きは語りを助けるだけでなく、楽器だけの演奏で劇を進行させます。



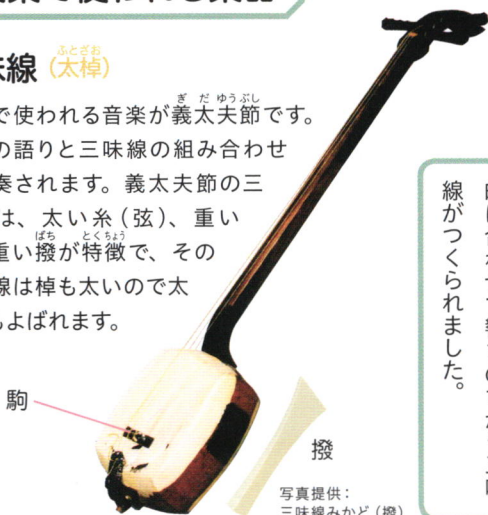
白山市に伝わる文弥人形浄瑠璃『源氏烏帽子折』。江戸時代にできた文弥節という三味線音楽を太夫と三味線弾きが演奏し、一人が一体の人形を遣います。

写真提供：白山市教育委員会

文楽で使われる楽器

三味線 (太棹)

文楽で使われる音楽が義太夫節です。太夫の語りと三味線の組み合わせで演奏されます。義太夫節の三味線は、太い糸(弦)、重い駒、重い撥が特徴で、その三味線は棹も太いので太棹ともよばれます。



写真提供：三味線みかど(撥)

代表的な演目はコレ！

- 仮名手本忠臣蔵
- 廿三間堂棟由来

三味線について

17世紀から現在まで日本でよく使われている楽器が三味線です。胴に長い棹が付いた楽器です。弦は3本ですが、柱がないのでたくさんの音高(音の高さ)を出すことができます。使う目的に合わせて響きのちがう三味線がつくられました。



歌舞伎

【かぶき】

芝居と舞踊にさまざまな音楽が登場

全国子供歌舞伎フェスティバル in 小松

安宅の関（小松市）を舞台にした歌舞伎『勧進帳』を子どもたちだけで上演します。

写真提供：小松市

歌舞伎は役者が舞台で芝居と舞踊を演じるもので、三味線を中心とした音楽が必要です。音楽は舞台上で演奏されるだけでなく、舞台の横に置かれる黒御簾という場所でも演奏されます。その中では三味線・唄だけでなく、大太鼓、木製や金属製の楽器など多くの種類の楽器が場面を盛り上げるために演奏されます。歌舞伎でよく使われるのが長唄で、唄と三味線を大勢で演奏するのが特徴です。語り物とよばれる義太夫節、常磐津節、清元節などの三味線音楽も使われます。能楽の囃子と同じ楽器（小鼓・大鼓・太鼓・笛）を三味線といっしょに演奏して、全体を華やかにします。

歌舞伎で使われるおもな楽器

大太鼓



大太鼓など

大太鼓は雨、雪、波の音などを表すために使われます。木製の木頭やツケ木は鋭い響きで、芝居の開始やクライマックスを示します。

木頭



写真提供：榎宮本卯之助商店

代表的な演目はコレ！

- 勧進帳 (かんじんちょう)
- 鷺娘 (さぎむすめ)
- 越後獅子 (えちごじし)

細棹三味線



三味線

(細棹・中棹・太棹)

撥

長唄の三味線は細い糸、軽い駒、軽い撥で明るい音を出します。細棹とよばれます。常磐津節と清元節の三味線は、これよりも太い糸で落ち着いた響きを出します。

写真提供：株式会社ヤマミュージックジャパン(三味線)、音福(撥)

箏・三味線・胡弓（尺八）による音楽



【さんきょく】



写真提供：新日鉄住金文化財団（紀尾井ホール）

劇場での音楽とは別に、室内楽の伝統もあります。座敷のような場で繊細な響きをきく音楽で、箏曲と箏・三味線・胡弓による合奏が代表です。箏曲は箏と歌の音楽で、弾きながら歌います。箏は13本の弦の下に柱を立てて調弦（調律）します。調弦は演奏する曲によって決まります。箏と合わせるのは地歌という三味線音楽で、落ち着いた響きを持ちます。胡弓は弓で弦をこする日本で唯一の楽器です。禅宗の楽器だった尺八も、明治維新から箏や三味線との合奏に使われています。いまでは、これらの楽器を使う音楽が三曲とよばれます。

知っているかな？

金沢素囃子



素囃子とは、能楽の囃子が独立した形式で演奏することを指しますが、金沢素囃子は歌舞伎囃子をもとに三味線、唄を加えたもので、舞台上で華やかな演奏をきかせてくれます。その格調高さや華麗さ、技の確かさは全国でもトップクラスといわれ、金沢市の無形文化財に指定されています。



ほとんどの場合、舞台上のひな壇の上段に三味線、唄、下段に囃子方（笛、小鼓、大鼓、太鼓）が並んで演奏します。

箏 そう (こと)

右手の親指、人差し指、中指にはめ
た爪で弦を弾きますが、爪の形は流派
によってちがいます。調弦にない音は、
左手で弦を押さえてつくります。



胡弓 こきゅう

三味線を小型にした楽器で、中
国の胡弓とは関係ありません。
楽器を立てて弓で弦をゆるやかに
すります。小さな音ですが、音
が続くのが特徴です。三弦と四
弦のものがあります。



代表的な曲はコレ！

- 《六段の調》(箏・三弦・胡弓・尺八の独奏や合奏)
- 三曲合奏《松竹梅》



撥

写真提供：音福 (撥)

地歌三味線 じうたじゃみせん

箏と合わせる地歌の三味線は三弦ともよ
ばれ、重い駒と大きな撥を使い、左手を
棹の上ですべらせる小さな音も大切な響き
です。三弦の弾き歌いや、二重奏で演奏
されます。

尺八 しゃくはち

竹の縦笛で、日本の長さの単位で一尺八寸（約 55cm）なので縮めて尺
八とよびました。実際にはそれよりも短いものも長いものも使われますが、
指孔が表に 4 つ、裏に 1 つある点は共通です。息を吹き込む角度をあごの
上げ下げで変え、また指孔の開けかたを変えることで、音の高さを変える
ことができ、半音よりも狭い音程もつくることができます。明治時代以降、
尺八は箏と三味線とともに新しい音楽づくりに使われています。



歌い継がれてきた地域の芸能



民俗芸能と民謡

【みんぞくげいのつと
みんよつ】

民俗芸能は地域の人々が自ら演じる芸能です。

石川県にもたくさんの方々の民俗芸能があります。たとえば、田の神を家でもてなす奥能登の「あえのこと」、人形をまわす尾口の「でくまわし」、七尾の青柏祭の「曳山行事」などは、国から重要無形民俗文化財に指定されています。

これらを毎年行つて、後継者を育てるためには、地域が力を合わせなければなりません。また、石川県ではたくさんの方々の民謡が伝えられています。それらは、他の地域から運ばれてきたものもありますが、それぞれの地域で大切なはたらきをしています。また、民謡は生まれた地域をこえて広く歌われることもあります。

ほかにも自分の
住んでいるところの
民謡をきいてみよう！

石川県のおもな民謡や伝統芸能

民謡「山中節」

仕事をしながら歌う民謡ではなく、山中温泉に来る客に座敷でかきせるための歌でした。1928年にレコードに録音されたときから、ゆっくり歌うようになったものです。

民謡「まだら」

九州から伝えられた歌のようですが、石川県の七尾や輪島の方がよく知られています。祝いの場で、めでたい歌詞にたくさんの方々の音をつけて、ゆっくり荘重に歌います。

青柏祭の「曳山行事」

「でか山」といわれる高さ12メートル、重さ30トンもある大きな3台の山車を、各町内から木遣りや曳き出し歌という民謡を歌って動かし、大地主神社に奉納します。

もっと邦楽を 楽しもう！

石川県ではもっと身近に邦楽にふれてもらうために、子どもや初心者向けのいろいろな取り組みをしています。

ふれあい伝統芸能ランド

さまざまな伝統芸能を気軽に体験できるワークショップです。

【主な体験内容】

小鼓、三味線、狂言、落語、箏、笛、琵琶、日本舞踊など

【時期・場所】8月上旬、石川県立音楽堂交流ホール

（公財）石川県音楽文化振興事業団
☎076-232-8111

いしかわ子ども 邦楽アンサンブル

小学生から高校生による長唄、三味線、箏、囃子（小鼓、大鼓、大鼓）などの邦楽器オーケストラで

さまざまな試みに挑み続ける



新しい邦楽

「あたらしいほうがく」



海外でも高い評価を得る日本音楽集団 写真提供：日本音楽集団

日本の伝統音楽では、昔からつねに新しい音楽が生まれてきましたが、明治時代以後、多くの外国音楽が知られるようになると、それがきっかけになって、伝統音楽の中により多くの変化が生まれるようになります。邦楽器だけの大きな合奏や西洋の形式である協奏曲（コンチエルト）、変奏曲も使われるようになります。20世紀後半からはさらに新しい試みが盛んになり、西洋の管弦楽と邦楽器の組み合わせや雅楽の管弦が、現代的な響きを演奏するようになりました。こうした作品は古典の作品とともに演奏され、楽しまれています。これからの変化も楽しみです。

インターネットで“邦楽”

【文化デジタルライブラリー】



国の「教育の情報化プロジェクト」の一環としてつくられたサイトです。日本のあらゆる伝統芸能について、かわいいイラストや動画なども使ってわかりやすく紹介されています。

<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/>

す。「合奏は楽しい！」をテーマに、「誰でも、楽しく、有意義に」をモットーとして本格的なレベルの高いアンサンブルを目指して活動。年に数回、コンサートや発表会に出演し、練習（月2回程度）の成果を披露しています。

（公財）石川県音楽文化振興事業団
076-1232-8111